

第5学年1組 体育科授業案

5年1組体育館 授業者 川合 崇司

1 単元名

みんなでつないでゴールを目指そう ～ハンドボール～

2 単元の目標

- ・フリーになっている味方にパスをつないだり、得点しやすいように空いているスペースに移動してパスを受けたりシュートをしたりして、ゲームをすることができる。 【知識及び技能】
- ・みんなが楽しめるルールや、チームの特性に合った作戦を考えて仲間に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・運動に積極的に取り組み、ルールを守ったり、仲間と助け合ったりしてゲームをすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、1学期に行った体育の授業に関するアンケートから約87%の児童が体育の授業は好きであると回答した。体育の授業が好きな理由をみると、「体を動かすことが好き」「新しいことができるようになった時が気持ちいい」などがあつた。一方で、体育の授業は得意ですかという質問に対しては、学級の約40%の児童が「ふつう」「あまり得意ではない」と回答した。「あまり得意ではない」と回答した児童の理由をみると、「運動ができない」「失敗することが多い」などの意見があつた。このことから、本学級は、体育の授業は好きだが、得意という意識が低い児童が多く、それらの児童は失敗することに対してネガティブな気持ちをもっていることが分かつた。また、6月に実施したhyper-QUにおいては、児童たちの多くが誰とでも交流することができているが、組織的な連携は苦手であるという結果が出た。

本単元は、5年生になってから行う初めてのボール運動の学習となる。学習を進めるにあたり、場の設定やルールの工夫を行い、全ての児童がボール運動に積極的に取り組み、ゴールを決めるという成功体験を積み重ねることで、その楽しさを十分に味わわせることをねらいとしている。また、直接得点できなくても、得点に関与する動きをしている児童を認め、そのような動きの大切さを学級全体に伝えていくことで、組織として連携することの大切さや達成感などを感じてほしい。そして、運動する楽しさや仲間と協力し課題を解決することへの喜びを体験させることで、失敗を恐れず活動に取り組み、自ら学び深めていくことのできる児童に育ててほしいと強く願っている。

(2) 教材観

本教材では、ハーフコートでの3対3の試合を行うことや、攻撃と守備の時間を分けてゲームをするなどルールの工夫をすることで誰もがボール操作をしやすく、個人技能の差がつかないようにすることができる。さらに、ボールを持っている、持っていないに関わらず目線を上げやすく、周りを見た動きが判断できるようになることが期待できる。また、主運動につながる簡易的なゲームを継続して行うことで、試合で必要な技能を主体的に高めることができるであろう。そして、自分のチームの特徴に応じた作戦を考え、実践させることで、チームでプレーすることの楽しさや、喜びを感じながら、どの児童も主体的に活動することができるようにしたい。

(3) 指導観

本単元は得点を競い合う競技である。単元の最初に全員が得点をするという目標を提示することで、どの児童にも活動に取り組むための必要感をもたせる。タブレットを駆使し、前時の振り返りやプレー中の映像などを可視化させることで、得点するために必要な技術的課題や戦術的課題に気づかせ、どのようにすれば得点をするのか考えさせたい。さらに、ボールを持たない児童が空いている場所に移動しパスを受け得点したり、得点はしていないが得点しやすい場所を作る動きをして得点に関与したりした場面を紹介し、何が大切であるか問うことで、ボールを持っていない児童の動きが得点を取るためには重要な要素であることを理解させる。

また、練習方法や試合で使う作戦、ルールを教師が提示するだけでなく児童の考えを反映させながら実施することで、本単元を通して身につけたい技能や思考に迫っていきたい。そして、「できた」「わかつた」という瞬間をチームで共有し、運動する楽しさや喜びを実感させたい。

4 単元構想図（12時間完了）

学習の流れ
<p>ハンドボールを知ろう① ※A※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん走るんだね。 ・どうやったらたくさん点が入るんだろう。 ・カッコいいシュートがしたいな。
<p>試しのゲームをしよう② ※A※B※C※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュートが決まるとうれしいな。 ・パスがうまくとれなかったからパスの練習がしたいな。 ・ゴールに向かって動いたら、パスが回ってきたよ。
<p>試しのゲームで気づいた課題を、意識してゲームを行おう。③④※A※B※C※D※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜め45°の位置からはシュートがよく決まったよ。 ・パスが低いと受ける人はとりにくそうだな。相手の胸を狙って投げよう。 ・どの位置からのシュートが一番入りやすいのかな。 ・角度があまりないところからのシュートはなかなか入らなかったよ。 ・自分の得意なシュートゾーンに行くためにはどうしたらいいのかな。 ・シュートが決まるには、パスが安定しないとイケないね。 ・シュートはワンバウンドのほうが決まりやすいね。
<p>試合中にたくさんシュートを打つ作戦を試そう。⑤⑥ ※A※C※D※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュートの数が増えたから得点も前より多くなったよ。 ・ディフェンスがいるからシュートが入りにくかったよ。 ・シュートを入れるには、守りがいないところから打てばいいんじゃないかな。 ・たくさんシュートを打つ作戦をやってみよう。
<p>コートを広く使う作戦を試そう。⑦⑧ ※A※C※D※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一ヶ所だけからの攻撃だと、空いているスペースがもったいないね。 ・サイドを使うとスペースが開いてシュートが打ちやすいね。 ・空いている反対側のサイドにパスを出すといいよね。
<p>フリーでシュートが打てる作戦を試そう。⑨⑩【本時】⑪※A※B※C※D※E※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持っていない子の動きが重要だね。 ・得点のしやすいポジションに行くためには、ボールを持っていない子が動かないといけいないね。 ・パスを出した後も出した人が動かないといけいないね。 ・パスを出すふりをしてシュートをするとうるかもしれないね。
<p>ゆたかんカップをしよう⑫ ※A※F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで仲良く試合ができるといいね。 ・考えた作戦がうまくいったよ。すごくうれしかったな。 ・チーム全員が得点をとることができてうれしいな。みんなで協力すると楽しいね。

【手立て】
<p>※A 単元を通して全員得点をするのが本単元の目標であることを伝えることで、全ての児童にプレーへ関わることへの必要感をもたせる。</p> <p style="text-align: right;">興味をもたせる</p>
<p>※B 本時のめあてを児童の前時までの振り返りを活用し提示することで、本時に対する必要感を高めさせたり、児童が感じている困り感や振り返りを学級全体で共有したりする。</p> <p style="text-align: right;">興味をもたせる</p>
<p>※C チームや全体での話し合いをより活性化させるために、タブレットやホワイトボードで動きを可視化させる。</p> <p style="text-align: right;">比較させる</p>
<p>※D 得点の確率を高くするためには、シュートやパスでどのようなところを工夫すればよいかと問うことで本時のねらいに迫る。</p> <p style="text-align: right;">でる</p>
<p>※E フリーでシュートを打つためには、どのようなところを工夫するとよいかと問うことで本時のねらいに迫る。</p> <p style="text-align: right;">でる</p>
<p>※F 今日の授業での、個人やチームの成果や課題について、個人ではどのようなことを感じたのか、またどのようなことをどのように友達から学んだのかを振り返らせる。</p> <p style="text-align: right;">振り返らせる</p>

5 本時の学習（本時10/12）

(1) 目標

- ・空いているスペースに移動し、フリーでシュートを打つ作戦を考えることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 過程

学 習 活 動	教師の支援・手立て
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディフェンスがいるからシュートが入りにくかったよ。 ・シュートを確実に入れるには、守りがいないところから打てばいいんじゃないかな 	<p>興味をもたせる 前時までの児童のタブレット「Sky Menu cloud」での振り返りをいくつかテレビで提示し、本時のめあてに迫ることで、児童に本時の取り組みへの必要感をもたせる。</p>
<p>試合中にフリーでシュートを打とう</p>	
<p>2. 簡易的な試合に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1試合10秒しかないから、すぐにゴールの近くまでパスしないといけないな。 ・誰がボールを取りに行くのか決めておこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートへの意識を高めるために、簡易的な試合では、必ずシュートまでいくことを声掛けする。
<p>フリーでシュートを打つために大切なことは何かな</p>	
<p>3. フリーでシュートを打つために大切なことを全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持っていない子が動くとスペースができるね。 ・空いたスペースにボールをもっていない子が走ればフリーでパスがもらえるよ。 ・ボールを持っている人は、フリーの人にタイミングよくパスを出さないといけないね。 	<p>でる フリーでシュートを打つことができているチームの動画を見せることで、ボールを持たない人が動いたり、ボール保持者がタイミングよくパスを出したりすることなどが大切であると気づかせる。</p>
<p>4. 作戦タイムの時間をとり、試合に取り組む。</p> <p>作戦時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロス作戦をしてみよう。 ・ブロック作戦をしてみよう。 <p>試合後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空いているスペースに動いたら、フリーでシュートを打つことができたよ。 ・ボールを持っていない人が動くと、スペースができるね。 ・作戦がうまくいくとうれしいな。 ・チーム全員で協力して得点を取ることができたね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをより活性化させるために、作戦を確認するときはホワイトボードを活用し、視覚的に動きをわかりやすくさせる。 ・試合は2試合行う。 ・試合に出ていない児童にはタブレットで動画を撮らせる。 ・作戦をかいたホワイトボードは写真を撮っておくことで、次時以降にも作戦を振り返ることができるようにさせる。 ・試合前にもう一度、ボールを持っていない人の動きを意識して行うことを声かけする。
<p>5. 今日の授業を振り返る。</p> <p>〇〇さんや〇〇くんのボールを持たない人の動きが大切という考えから、フリーでシュートを打つためには、ボールを持たない人が動いてスペースをつくり、そのスペースへもう一人のボールを持たない人がタイミングよく動くことが大切だとわかりました。</p>	<p>振り返らせる タブレット「Sky Menu cloud」を使って、今日の授業で自分たちが考えた作戦を成功させるには何が大切かについて、友達のどのような意見からどのようなことが分かったのか振り返らせる。</p>

(3) 評価

- ・空いているスペースに移動し、フリーでシュートを打つ作戦を考えることができたか。

(伝え合う様子、振り返り)